

シニア・ストラテジスト
山本 雅文

マネックス証券株式会社
www.monex.co.jp

英予算案はポンドを救うか？

<ポイント>

- ◆昨日は、欧州時間にギリシャ問題を巡るユーロ圏財務相会合・首脳会合に向けて米中長期債利回り低下・ドル高・円高が進行したが、NY 時間入り後にはギリシャが 8 日までに新提案を策定し週末 12 日までの合意を目指す方向性が見えてきたことから反転したかたちとなった。
- ◆ドル/円は、米中長期債利回り低下と共に一時 122.01 円へ下落した後、122 円台後半へ V 字回復しほぼ前日終値の水準に戻った。
- ◆ユーロ/ドルも、1.10 ドル台半ばから 1.0916 ドルへ急落した後、同水準へ回復したが、引けにかけては再度 1.10 ドル丁度近辺へ軟化している。
- ◆本日は、本日提出されることとなったギリシャの新改革案と融資申請の内容と EU 側の評価が注目され、報道を受けて上下する可能性があるが、最終決定は 12 日まで引き伸ばされる可能性が高く、為替市場も不安定な状況が続くと見られる。
- ◆その他、重要イベントとしては英予算案発表(20:30)と FOMC 議事要旨(明方 3:00)が注目される。英予算案では、従来以上に緊縮的な予算となる場合には、景気抑制・利上げ遅延リスクからポンド安要因となる一方、追加緊縮策なしで好況を受けた税収増を背景に今後の財政赤字が下方修正されたり、英国債発行額が従来計画よりも縮小されると、ポンド高要因となりそうだ。
- ◆6 月 FOMC 議事要旨では、先行きの利上げについて積極的な議論となればドル高、逆に更に慎重な議論が支配的となる場合にはドル安要因となるが、いずれにせよ、今回は利上げ開始時期の本命である 9 月まで時間があることもあって、確定的な内容とはならずドルへの影響も限定的となりそうだ。

昨日までの世界：RBA、豪ドル押し下げの好機を逃したが

ドル/円は、欧州時間にギリシャ問題を巡るユーロ圏財務相会合・首脳会合に向けてギリシャが新たな提案を持参しなかったことが失望となり、米中長期債利回り低下・ドル高・円高が進行、ドル/円は、米中長期債利回り低下と共に一時 122.01 円へ下落した。もっとも、NY 時間入り後にはギリシャが 8 日までに新提案を策定し週末 12 日までの合意を目指す方向性が見えてきたことから、米中長期債利回りや米株価と共に 122 円台後半へ V 字回復し、ほぼ前日終値の水準に戻った。

ユーロ/ドルは、欧州時間のドイツと米国の中長期債利回りの低下は概ね同程度だったが、原油価格などコモディティ価格の下落とドル高が同時に起きる状況下で 1.10 ドル台半ばから 1.0916 ドルへ急落した。NY 時間には原油価格の反発などと共に下落前の水準へ V 字回復したが、引けにかけては再度 1.10 ドル丁度近辺へ軟化している。

ユーロ/円も、135 円台半ばから一時 133.51 円と直近安値を少しずつ切り下げた。その後 135 円台半

ばへ V 字回復したが、引けにかけては 134 円台半ばで推移している。」

豪ドル/米ドルは、RBA 理事会で政策金利が据え置きとなり、豪ドル安の必要性に関する言及や明確な緩和バイアスを示さない姿勢も前回から維持されたことから、結果発表後に豪ドルが 0.75 ドル丁度手前へ強含みとなる局面もみられた。もっとも、欧州時間に入ると原油安などを眺め急落、一時 0.7398 ドルの安値をつけた。その後 0.74 ドル台後半を回復したが、NY 時間引けにかけては 0.74 ドル台半ばへ小反落している。

豪ドル/円も、92 円丁度前後から一時 90.43 円へ下落した後、91 円台半ばへ反発したが、NY 時間引けにかけては 91 円丁度手前まで小反落している。

きょうの高慢な偏見: 英予算案はポンドを救うか？

[今週の見通しはこちら\(7月3日付 FX 戦略ウィークリー\)](#)

[今週の経済指標カレンダーはこちら](#)

ドル/円は、本日提出されることとなったギリシャの新改革案と融資申請の内容と EU 側の評価が注目され、報道を受けて米中長期債利回りと共に上下する可能性がある。但し、最終決定は 12 日まで引き伸ばされる可能性が高く、不安定な状況が続くそう。ドル/円はギリシャ国民投票結果後も下落が限定的で底堅さが示されているものの、6 月 5 日の高値以降、下降チャネル入りは明確で上値の重さがより強く意識されており、日銀の追加緩和消極姿勢に変化がない限り、じり安傾向が続くそう。

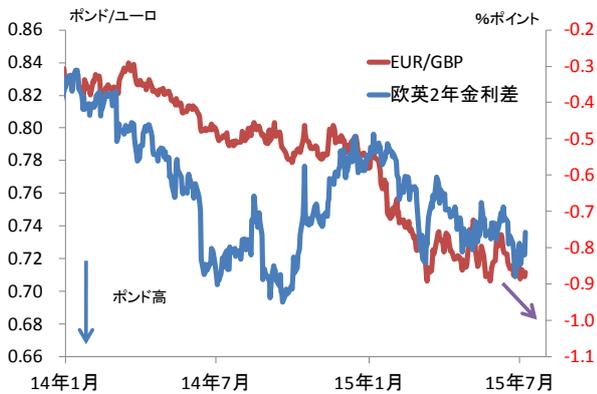
なお、米 6 月 FOMC 議事要旨では、先行きの FF 金利予測が小幅下方修正されハト派的と捉えられた会合終了時の声明文と経済予測発表と比べて、先行きの利上げについて積極的な議論となればドル高、逆に更に慎重な議論が支配的となる場合には、ドル安要因となるが、いずれにせよ、今回は利上げ開始時期の本命である 9 月まで時間があることもあって、確定的な内容とはならずドルへの影響も限定的となりそう。

ユーロ/ドルも、ギリシャのデフォルト、国民投票などでも急落はしていないが、6 月後半以降じり安が続いている。ギリシャ問題を受けてドイツ 10 年債利回りの下落基調が続けば、再び下落トレンド入りする可能性が出てきたかもしれない。

豪ドル/米ドルも、昨日の RBA 理事会では利下げが行われなかったが、鉄鉱石価格や原油価格の下落などを背景に年初来安値更新が続いており、特に米ドル高材料に反応して続落しやすい中、下値を探る展開が続くそう。

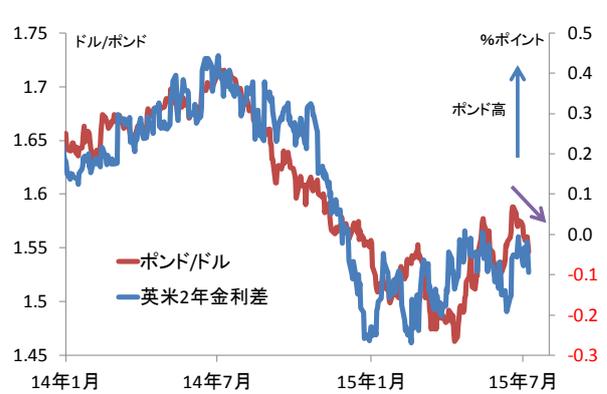
ポンドは、本日発表の英予算案が増税など追加的な緊縮策が含まれ従来以上に緊縮的な予算となる場合には、景気抑制・利上げ遅延リスクが意識されポンド安要因となる一方、追加的な緊縮策が取られない一方で好況を受けた税収増を背景に今後の財政赤字が下方修正されたり、英国債発行額が従来計画よりも縮小されると、ポンド高要因となりそう。ポンド/ドルは足許軟調だが、ユーロ/ポンドは下落基調となっており、年初来安値(6 月末の 0.6988 ポンド)割れが視野に入っていることから、ユーロ売りポンド買い材料により反応しやすそう。

ユーロ/ポンドと独英2年金利差



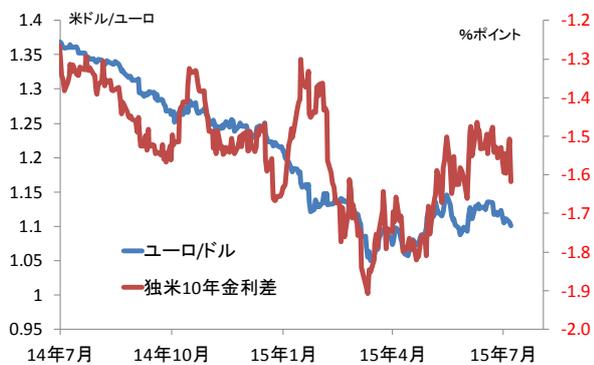
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

ポンド/ドルと英米2年金利差



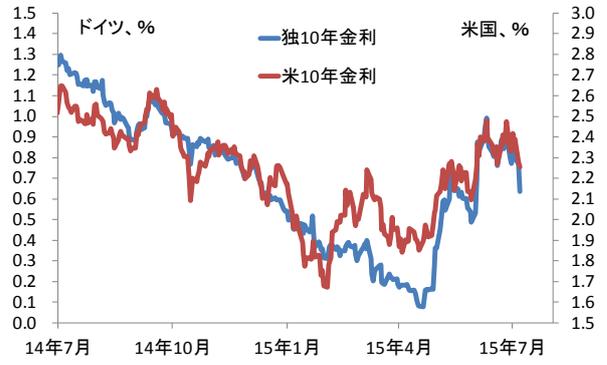
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

独米10年金利差とユーロ/ドル



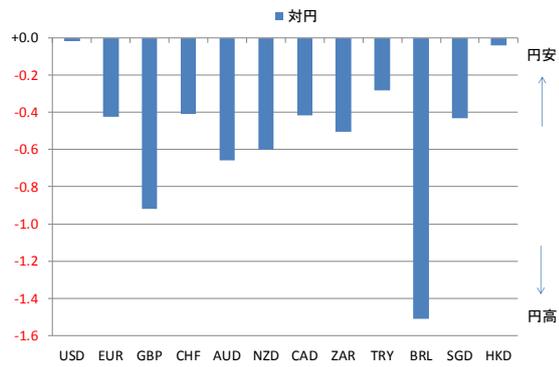
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

ドイツと米国の10年債利回り



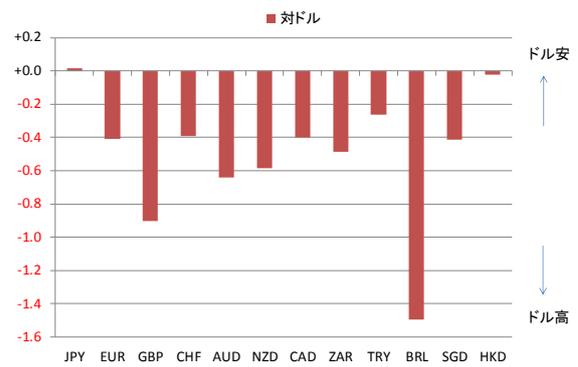
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要通貨の対円相場(前日比%)



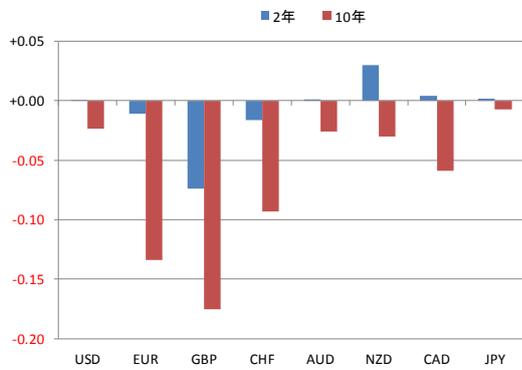
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要通貨の対ドル相場(前日比%)



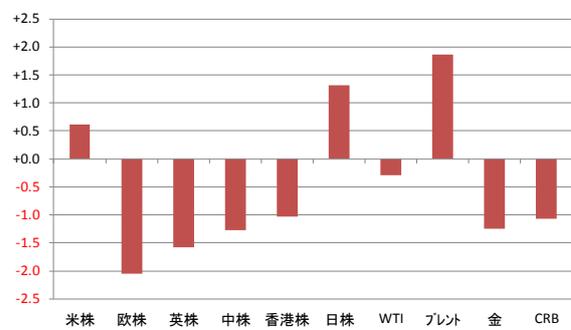
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要国の中長期債利回り(前日差%ポイント)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要株価・商品価格(前日比%)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会